

事務局長	記録者
	

## 平成30年度第2回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者・欠席者
平成30年10月18日(木) 18:30~20:00 大潟町中学校 会議室	進行 山岸 賢一  記録 西 健志	出席委員 ・長澤 英夫(会長) ・高橋 道代(副会長) ・柳沢 恵子 ・熊木 勉 ・塚田 克俊 ・金子 旦子 ・金子由美子 ・小山 彰 ・土屋 美枝 ・平澤 栄一 ・小山 将 ・齋藤 友美 ・中野 英康 ・竹田 一昭 欠席委員 ・齋藤 友美(事務局長) ・渡辺 章雄 ・井部 孝一 事務局 ・山岸 賢一 ・西 健志 オブザーバー ・坂森 弘明 ・南雲 民人 ・小山 宏一
<p>議事内容</p> <p>1 開会のあいさつ(長澤会長)</p> <p>2 小・中校長あいさつ</p> <p>3 議事(議長は長澤会長)</p> <p>(1) 小学校からの取組状況の説明</p> <p>○学校の様子 ※「いじめ防止基本方針」に基づく学校の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見と早期解消を目指す。「どこでも起こりうる」という認識をもって取り組んでいく。いじめ対策の組織構成では、必要に応じてCSの皆様からも御協力いただく。</li> <li>・日々の道徳の学習、縦割り班活動、家庭との連携が重要である。</li> </ul> <p>○1学期学校評価の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し相手になってくれる友だちがいる」「子どもは、友だちと仲よく過ごしている(保護者)」の肯定的評価の高さは、子どもの心優しい面を示していると考える。</li> </ul>		

- ・「自分の学級にいじめはない」「子どもは、友だちの気持ちを考えた言葉遣いをしている（保護者）」が低い数値結果。家庭等との連携をしながら指導を継続していく必要がある。
- ・「学校に行くのが楽しい」と感じている子ども、「子どもたちは前向きだ」と考える教師の様子。学習意欲をさらに高めながら指導していく。
- ・メディアとの付き合い方について、家庭と連携しながら指導を進めていく必要がある。

#### ○全国学力・学習状況調査の結果

- ・資料の通り、全国平均を下回る結果。
- ・「算数嫌い」を示す児童が6割。国語の「読む力」と大きく関係しているのではないかと考えられる。問題文を読み取り、最後まで粘り強く考える力に欠ける面が感じられる。

#### ○質問等なし

### (2) 中学校からの取組状況の説明

#### ○学校の様子

- ・学力も良好に推移し、社会性の向上もうかがえる。
- ・いじめ対策として、週1回の企画委員会や生徒指導部会において審議している。生徒指導部会には、月2回来校するスクールカウンセラーに出席してもらい、アドバイスをもらっている。

#### ○1学期学校評価の概要

- ・大多数の生徒が「学校が楽しい」と感じている。
- ・「いじめを許さない。他を思いやる」の質問項目において高い数値を示している。
- ・家庭学習については、2年生に若干の課題がある。
- ・メディアについては、11月に大学の田辺先生を呼んで講義を行う予定。

#### ○全国学力・学習状況調査の結果

- ・数値を見る限り、概ね良好であり、生徒たちも大変頑張っていることがうかがえる。

#### ○質疑

- ・挨拶については、生徒自身もよくなってきたと感じている。学校でもそのようにとらえているが、地域の方の目から見てどうであるか？ ※山岸教頭より  
→概ねよいのではないか。  
→中学生はよくなっている。こちらとしては、積極的に声をかけるようにしている。朝は「いってらっしゃい」というように、お互いに発する言葉を増やして、つながりを作っていきたい。

### (3) 保・小・中の連携について

#### ○主体的な学び部会について

- ・保育園、小学校の「見通しのもてること」、中学校の「分かりやすく」を大切に課題の設

定を心掛けている。

- ・「話すこと、聞くこと」を大切にした指導。保育園では愛着形成につながるものとして取り組んでいる。

○豊かな心部会について

- ・教科化される「道徳」の評価についての情報交換がなされた。
- ・「さわやか潟中スクール集会」において、「話すこと」を大切にしたい取組をしていく。

○生活・健康部会について

- ・各学年、発達段階において課題を共有化し、リーフレットを発行して家庭への啓発と協力を進めていく。
- ・養護教諭との情報連携により、「心の健康」面についてや生活習慣の様子をうかがい知ることができる。

○質疑

- ・「朝ごはん達成率」の基準は何か？
  - 赤、緑、黄の食品を食べることができたかどうかを基準。
  - 家庭によっては、3色の食品を食べさせることができない現実もある。市では、血液検査によって、糖尿病の子どもが増えてきていることを明らかにし、1歳からの食育指導の必要性を訴えている。幼少期の指導が重要である。

(4) 小中一貫教育実践校について

○以下を踏まえ、承認をお願いしたい。

- ・小中一貫校の設置要件について（要項資料）
- ・代表校長は、中学校の校長とする。

○質疑と承認

\*質問等はなく承認が確認される。

(5) その他

○話題提供として

- ・人口減少が著しいため、上越市は教職員の適正配置を進めている状況である。
- ・大潟区は、今後10年間で、小学校が60名減、中学校が70名減という状況である。区によっては、複式学級の設置がなされる状況もある。

○全体を通しての質疑

- ・文科が新たに示した「いじめの定義」が大変分かりづらい。子どもにも伝えにくいものとなっている。低学年の子どもには、アンケートで「いじめ」という言葉を使わずに、具体的な文言で質問してみる必要がある。また、その質問について、行政側に提示してほしいという現場からの声を上げていく必要もある。保護者には、この定義に応じた理解がなされていない。

○学力テストにおいて数値が低くなった原因とは？

- ・現在、学力向上の取組を積極的に進めていける状況に至っていない。個人差も大きい。
- ・子どもが学校に来て、すぐに話すことはゲームのこと。そして、すぐに出る言葉は「面倒くさい」。課題提示も工夫しているが、学習意欲がなかなか高まらない現状にある。
- ・NRT学力検査は、基本的学習内容の復習によって、ある程度の数字は出る。大潟町の子どもには、B問題いわゆる応用的な問題に課題がある。

○「面倒くさい」は保護者からもよく聞かれる言葉。それが子どもにも伝わっているのでは？

#### 4 事務連絡

##### (1) 今後の予定

○第3回は2月の中旬予定で調整を進める。その頃、都合が悪い場合はお知らせいただきたい。

##### (2) その他

○コミュニティスクールに関する各種セミナー等、興味のある方は学校（教頭）まで。

○上越市教育コラボ学び愛フェスタには、各校から1名の参加要請あり。特に、カールベックスさんの講演会へ。

○11/17 食育フォーラムへ

- ・朝ごはんをテーマにしている。子どもたちにも是非勧めしてほしい。

○10/24 「大潟の子どもを育てる会」講演会へ

- ・是非呼びかけを。中学生の発表もある。

#### 6 閉会のあいさつ（高橋副会長）